



あゆみこどもえんだより

令和 6 年 5 月 社会福祉法人あゆみ会 あゆみこども園 大江町大字藤田字大花 402-4
HP アドレス <https://www.ayumi-kodomo.jp> TEL 0237(62)3220
Mail アドレス mail@ayumi-kodomo.jp FAX 0237(62)3260

園長 小関 義人

新しいクラスでの生活が始まり、早いもので1か月が経ちました。子どもたちも好きな遊びを見つけたり、好きな先生と関わることで笑顔が増えてきたように思います。そして、先日は、保護者説明会・保育参観へのご参加ありがとうございました。子どもたちの今の姿を見る事ができたと思います。これからの行事の中で、その時その瞬間に見せる子どもたちの姿がありますので、予定している行事等に参加していただき、子どもたちの成長を一緒に共有したいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

連休中は、大好きなお家の人と一緒に過ごすことができるので、どこかに出かけなくても、子どもたちも心が満たされることと思います。どこかに出かけることも楽しいですが、子どもたちに合わせて、無理のない計画をしましょう。

寒暖の差が大きいので、体調崩さないように食事や睡眠をしっかりとって健康に、そして楽しく過ごせるようにしましょう。重ね着をして衣服の調整などもお願いします。



の行事予定



日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日
5 こどもの日	6 振替休日	7 発育測定	8	9 避難訓練	10	11
12	13	14 礼拝	15	16	17	18
19	20	21	22	23 誕生会	24 親子遠足 (2歳児)	25 保護者作業 うさぎぐみ 1歳児 6:00~7:00
26	27	28	29	30	31	



の行事予定

7日(金)	花の日訪問
5・6日(水・木)	検尿
10~14日 (月~金)	発育測定
11日(火)	防犯訓練
13日(木)	避難訓練
18日(火)	礼拝、耳鼻科健診 13:00~
24日(土) 6:00~7:00	プール設置 きりんぐみ保護者・役員 パパ会(夕方から)
25日(火)	誕生会

新しいお友だち

うさぎぐみ 
むらかみ こはるちゃん
ひよこぐみ 
せいの みくりちゃん
よろしくお願いします。



こうへい そうがくん 2さい
あべ きよかちゃん 2さい

花の日訪問について

お花の協力をお願いします。
(お庭に咲いている方)
※詳細は後日お知らせします。



保育参観へのご参加ありがとうございました！

先日はお忙しい中、保育参観・保護者会総会にご参加ありがとうございました。初めての参観ということで大好きなお家の方のそばを離れられずにお友だちもいたようですが、子どもたち一人一人がとても素敵な笑顔を見せてくれました。



おねがい

～災害時等の緊急連絡について～

先日、おたよりでもお知らせしましたが、緊急連絡をする際やおたより・おしらせ等、今後は『さくら連絡網』を使うことになりますので、ご承知おきください。

わからないことなどありましたら、職員までお知らせください。

～反抗期と心の発達～ 小西行郎(同志社大学赤ちゃん学研究センター教授)

著『知れば楽しいおもしろい赤ちゃん学的保育入門』より一部抜粋

求む「反抗期」！(コラム)

「反抗期」という言葉を最初に使ったのは、スウェーデンの心理学者。日本でも「反抗期」という言葉をずっと使っていますが、現在欧米では2、3歳児のこの時期を「独立期」と呼んでいます。

欧米では、子どもを独立したひとつの人格として認めていますから、この時期は親から自立するための喜ばしい時期と考えているのです。そして、子どもは文字通りこの時期から少しずつ自分で考えて、自分で決めて行動しようとします。

一方日本では、「反抗期」はむしろ親のいうことを聞かない「困った時期」としてとらえています。親はいつまでも、大人のいうことを聞く「素直でよい子」を求め続けます。「個性豊かな人間に育てたい」といいながら、子どもが自我を育てている大切なこの時期に、子どもの自我を抑え、否定し、無視することがしつづけたと思ひ込んでしまっているようです。

けれど、「反抗期」も「問題行動」もない子どもは、自分で行動し、自分で考えることができません。反抗期を十分に経験しないまま大人になると、いつまでも自立できずに、精神的にも経済的にも親に依存し続けます。今日本では親元から離れられない、仕事をもたない若者たちが増えて社会問題になっているのも、そのせいではないでしょうか。

これからは、ちゃんと「反抗期」を経験した子どもが求められます。親や周囲の大人は、手のかからない子ども、いうことを聞く子どもが本当にイイ子なのか、大人の都合の結果ではないのか、考える必要があるでしょう。

